

CITATION: Howard L, Hoffbrand SE, Henshaw C, Boath L, Bradley E. Antidepressant prevention of postnatal depression *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2009, Issue 1. Art. No.: CD004363. DOI: 10.1002/14651858.CD004363.pub2.
CRG名: Cochrane Depression, Anxiety and Neurosis Group.

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 10 June 2007
Clib issue No.: N/U: 2009 Issue 1; Update

アブストラクト

背景: 産後うつ病は、分娩に伴う一般的かつ重要な合併症である。未治療のうつ病は、母親の重篤な病的状態につながる可能性があるうえ、胎児および乳児に悪影響を及ぼすおそれもある。産褥うつ病の予防のための妊娠中の抗うつ薬の使用については、母親および発育中の胎児に対する有害作用の可能性があること、また、産褥うつ病を発症すると思われる女性を確実に同定することが困難であることから、明らかになっていない。

目的: 種々の抗うつ薬を標準的な臨床ケアに追加した場合の産褥うつ病の予防における有効性を評価すること。種々の抗うつ薬の有効性を比較し、ホルモン療法によるサポート、心理学的または社会的サポートなど、産褥うつ病に対するその他の介入と比較する。母親または胎児／乳児における抗うつ薬の有害作用を評価すること。

検索戦略: 2007年11月6日にCCDANCTR-StudiesおよびCCDANCTR-Referencesを検索した。

選択基準: 抗うつ薬の単独投与または他の治療との併用に関するランダム化試験であり、うつ病でない妊婦または過去6週間に産出した女性(すなわち、産褥うつ病のリスクのある女性)を対象とし、プラセボまたは心理社会的介入との比較を行ったもの。

データ収集と分析: データは試験報告書から著者らが独立して抽出した。不足している情報は、可能であれば研究者に要求した。データは「intention to treat」解析が可能であったものを求めた。

主な結果: 合計73例の参加者を含む2件の試験が本レビューの選択基準を満たしていた。いずれの試験も分娩後うつ病の既往歴のある女性を対象としたものであった。ノルトリプチリン(n=26)はプラセボ(n=25)を上回る利益を示さなかった。セルトラリン(n=14)は、プラセボ(n=8)と比較して産褥うつ病の再発を減少させ、再発までの時間を延長した。いずれの試験でもIntention-to-treat解析は実施されなかった。

レビューアの結論: 分娩直後に投与される抗うつ薬の産褥うつ病の予防における有効性について、何らかの明確な結論を導き出すことは不可能であり、よって、明確なエビデンスがないことから、分娩直後の抗うつ薬を産褥うつ病の予防投与として推奨することはできない。日常診療を反映させ、胎児および乳児に対する有害作用を検討するとともに、現時点での抗うつ薬の使用に対する女性の考え方を評価するには、抗うつ薬と他の予防的治療との比較も行うより大規模な試験が必要である。

平易な要約(Plain language summary)

抗うつ薬による産褥うつ病の予防

産褥うつ病はよく見られる重要な疾患で、母親、乳児、また家族全体に有害な影響を及ぼします。うつ病でなくて

も、産褥うつ病の高リスクの女性、たとえば分娩後の気分障害を発症したことのある女性などは、妊娠中または分娩後早期の抗うつ薬による予防を検討したいと思うかもしれません。このレビューでは、こうした治療の有効性について検討します。選択基準を満たしていたのは、2件の小規模な試験のみでした。いずれの試験でも、分娩直後に薬物療法が使用されました。薬剤は、三環系抗うつ薬(TCA)であるノルトリプチリン、選択的セロトニン再取り込み阻害薬(SSRI)であるセルトラリンでした。いずれの薬剤もプラセボのみと比較されました。ノルトリプチリンにプラセボを上回る利益があることは示されませんでした。セルトラリンは分娩後うつ病の再発の罹患率を低下させるとともに、再発までの時間を延長するうえで有効であることを示すエビデンス(証拠)がいくつかありました。しかし、いずれの試験もごく少数の女性のみを対象としており、intention to treat解析を行っていませんでした。よって、産褥うつ病の予防におけるこれらの抗うつ薬の使用について、明確なエビデンスはありません。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日:2015年 1月 8日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。